

# 1. 令和2年度の野生鳥獣による農林業被害の発生状況と傾向について

## 1 概要

### (1) 農林業被害の推移

山口県における野生鳥獣による農林業被害は、平成22年度をピークに減少傾向にあります。令和2年度の被害金額は、対前年度比7%減の4億5百万円となりました。

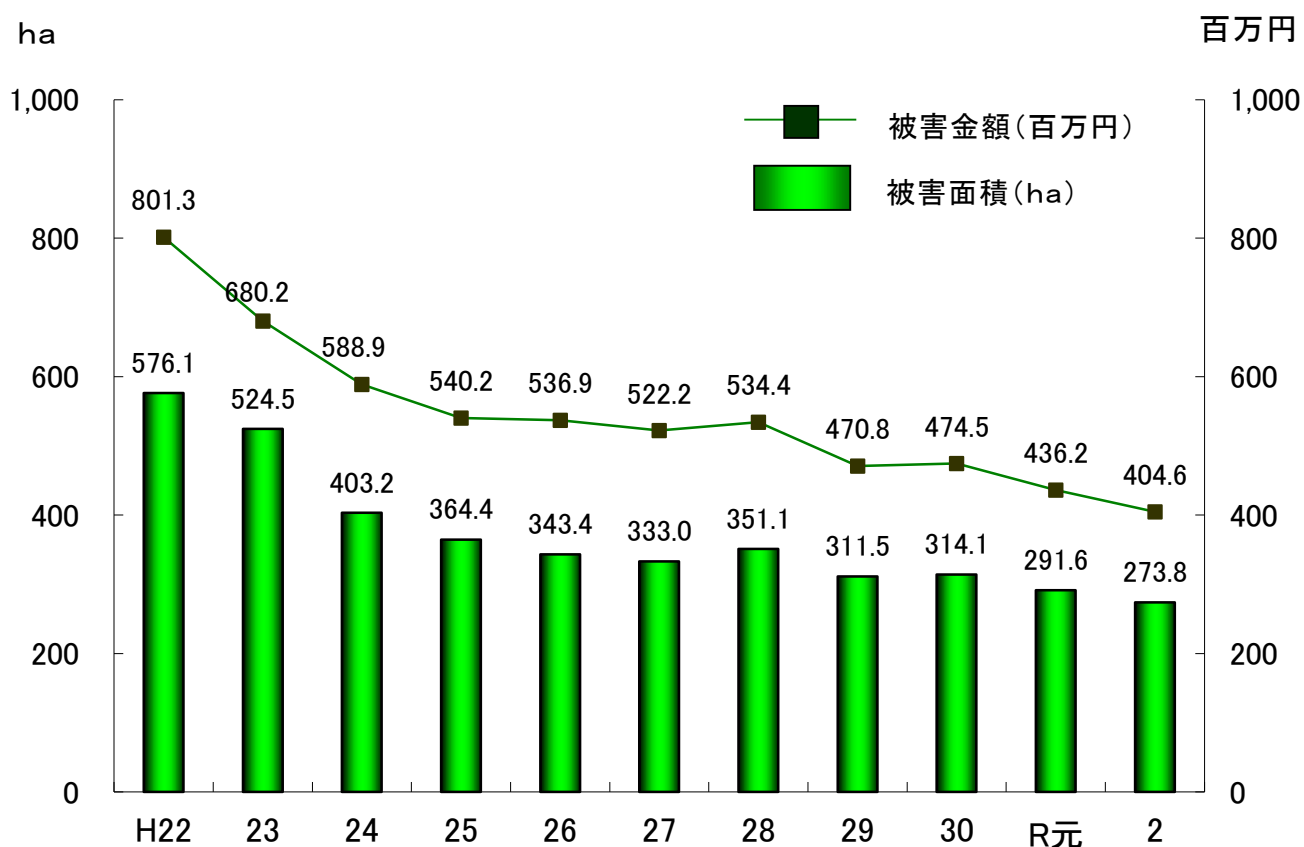


図-1 被害面積及び被害金額の推移（鳥獣被害全体）

## (2) 鳥獣別・作物別被害の内訳

令和2年度の被害金額を鳥獣別に前年度と比較すると、イノシシ、サルは減少し、シカは被害が増加しています。

鳥獣別の被害金額は、獣類が3億6千4百万円（全体の90%）、鳥類が4千1百万円（全体の10%）となっています。

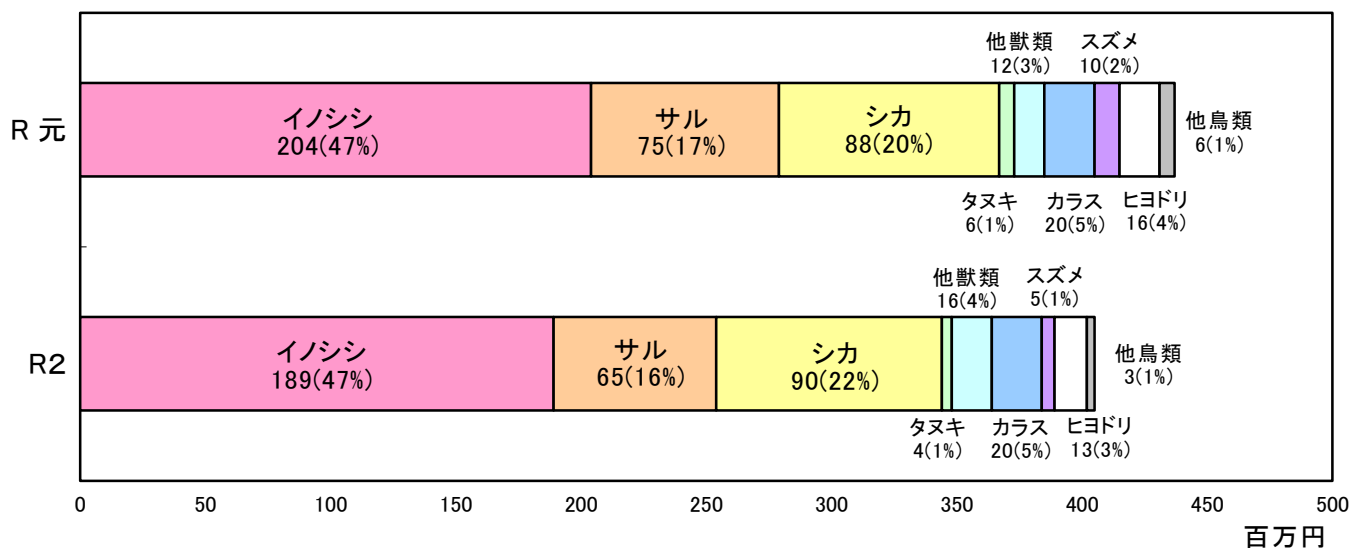


図-2 鳥獣別の被害金額

作物別の被害金額は、例年どおり水稲が最も多くなっています。

被害金額は、水稲、野菜で減少し、果樹、造林木で増加しています。

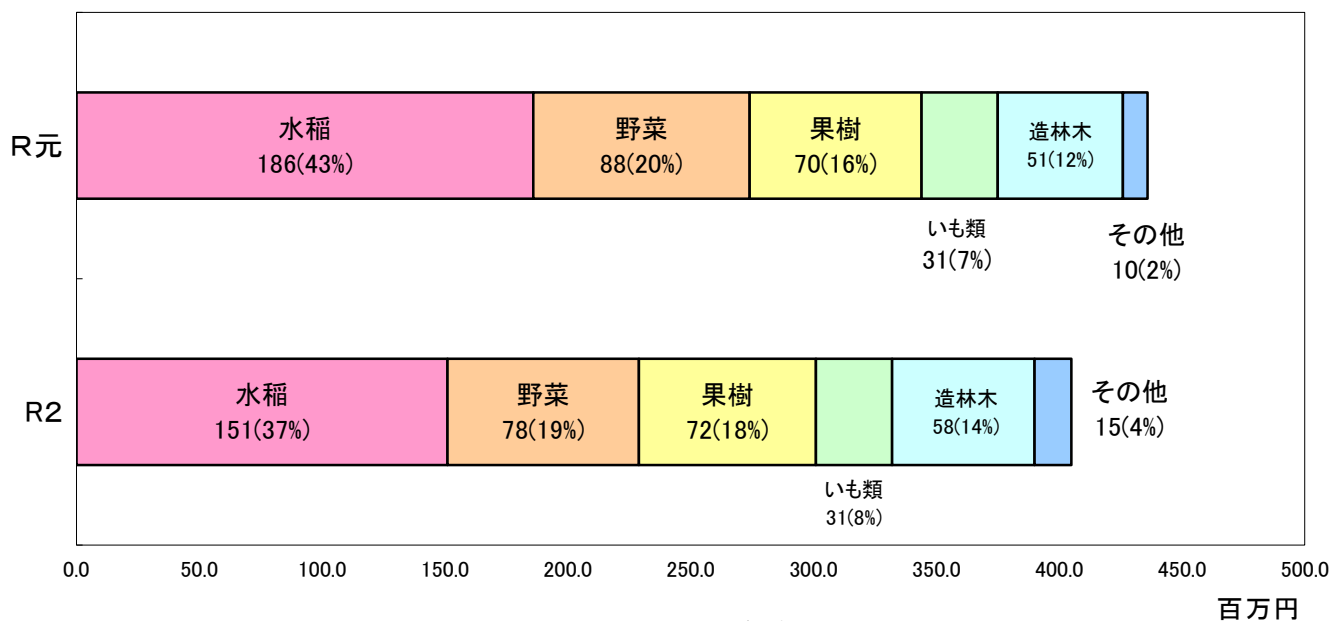


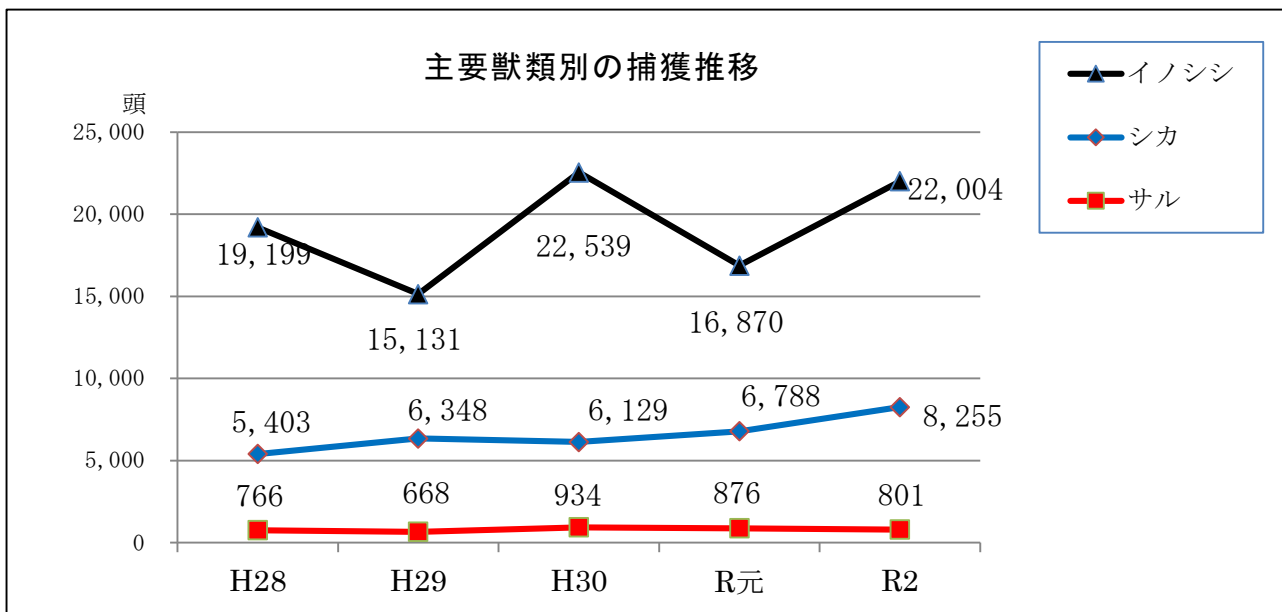
図-3 作物別の被害金額

【参考】

○主要獣類別の捕獲実績

(単位：頭)

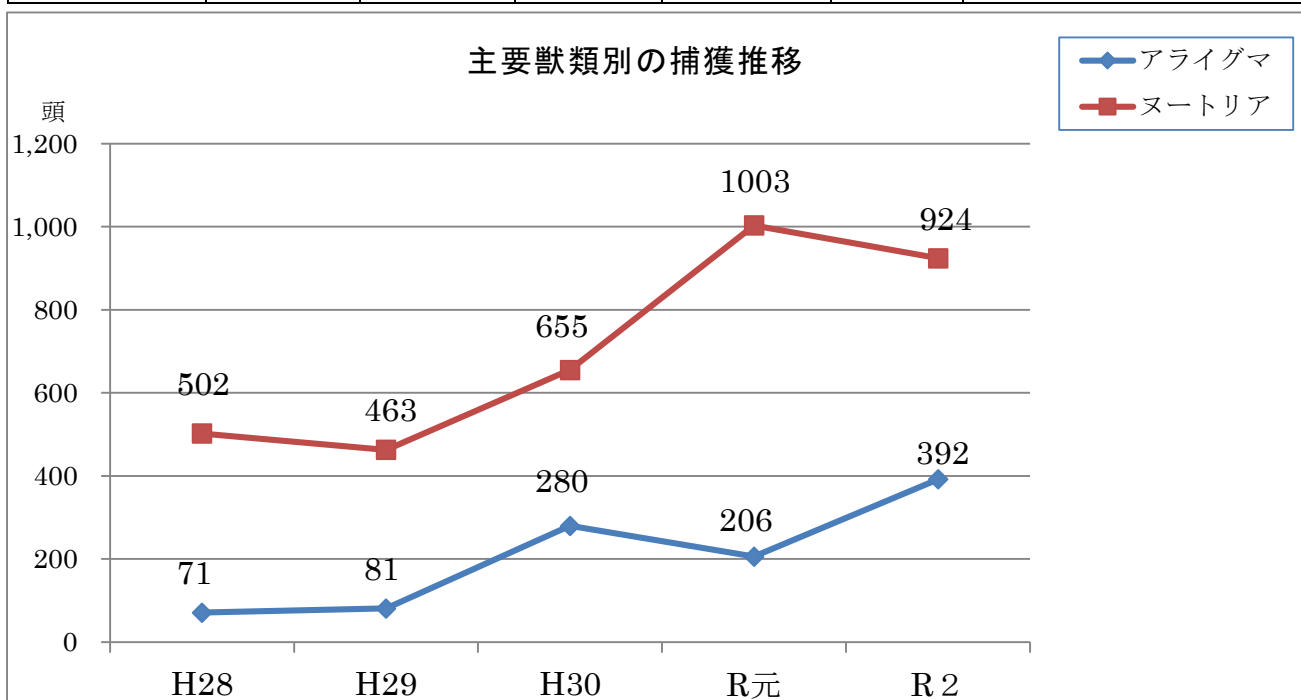
区分	H28	H29	H30	R元	R2	増減
イノシシ	19,199	15,131	22,539	16,870	22,004	+5,134 頭(30.4%増)
シカ	5,403	6,348	6,129	6,788	8,255	+1,467 頭(21.6%増)
サル	766	668	934	876	801	▲75 頭(8.6%減)



○主要獣類別の捕獲実績

(単位：頭)

区分	H28	H29	H30	R元	R2	増減
アライグマ	71	81	280	206	392	+186 頭(90.3%増)
ヌートリア	502	463	655	1,003	924	▲79 頭(7.9%減)



## 2 獣類別の被害状況

### (1) イノシシ

イノシシによる農林業被害は、前年度比7%減の1億8千9百万円となり、被害額がピークであった平成22年度以降で最も少ない被害額となっています。

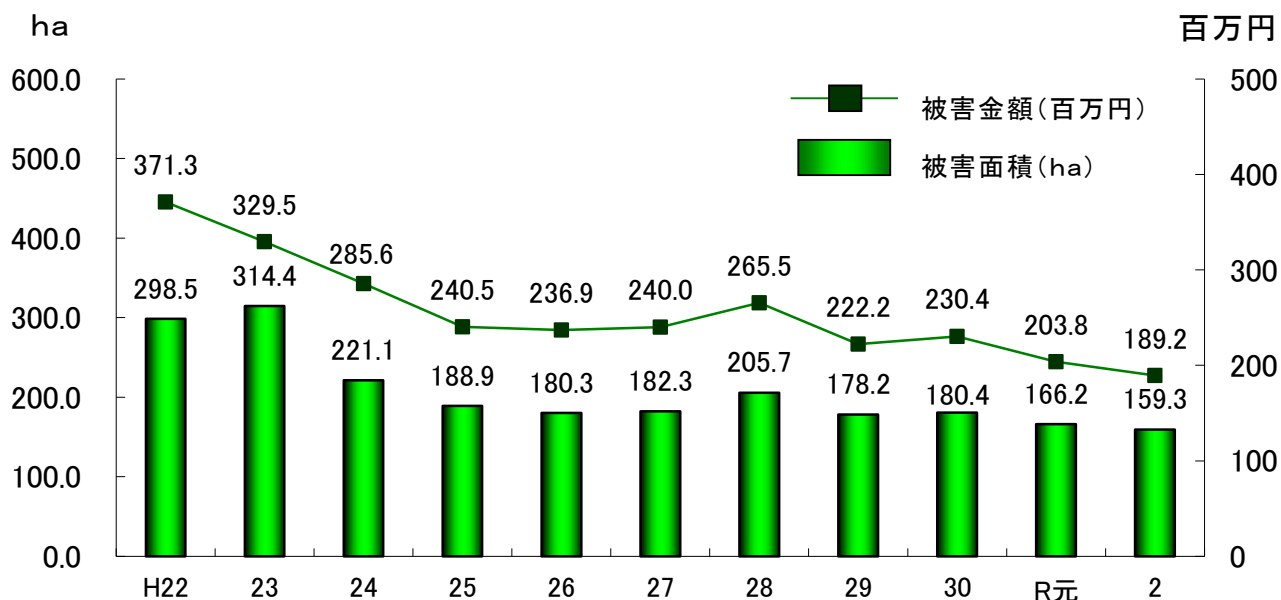


図-4 被害面積及び被害金額の推移（イノシシ）

被害金額全体に占めるイノシシ被害の割合は5割弱で推移しており、鳥獣による農林業被害の中で、最も深刻な影響を及ぼしています。

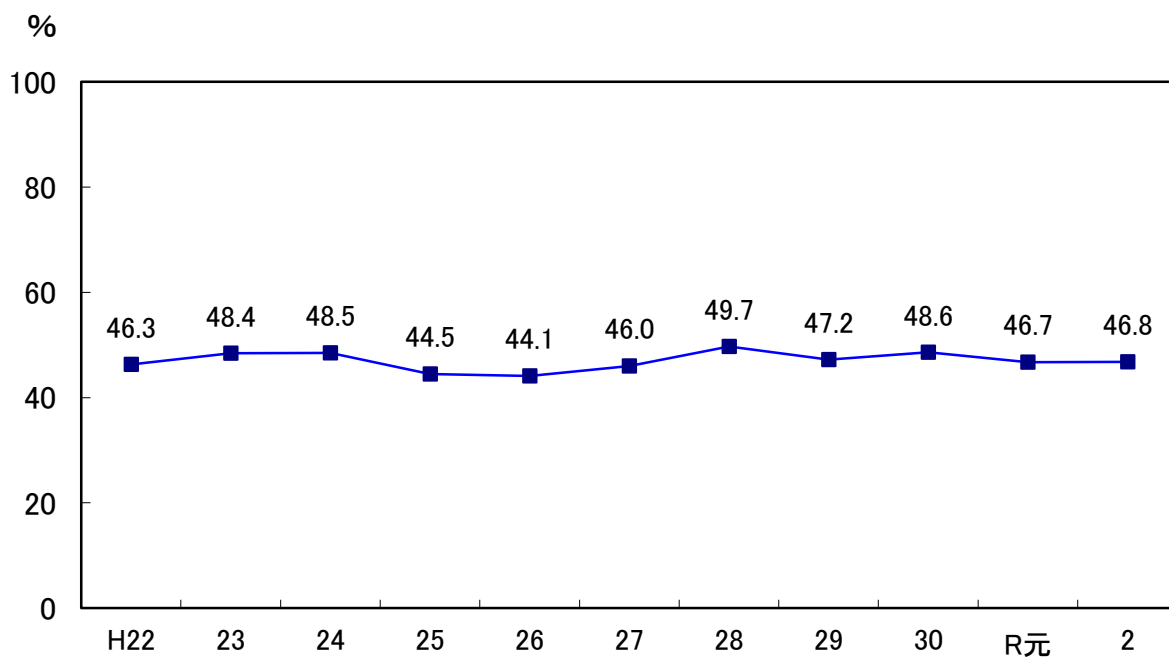


図-5 被害金額全体に占めるイノシシ被害の割合の推移

作物別の被害金額では、水稻が約1億1千5百万円と最も高く、被害金額全体の61%を占めています。次いで、いも類、果樹、野菜の順になっています。

百万円

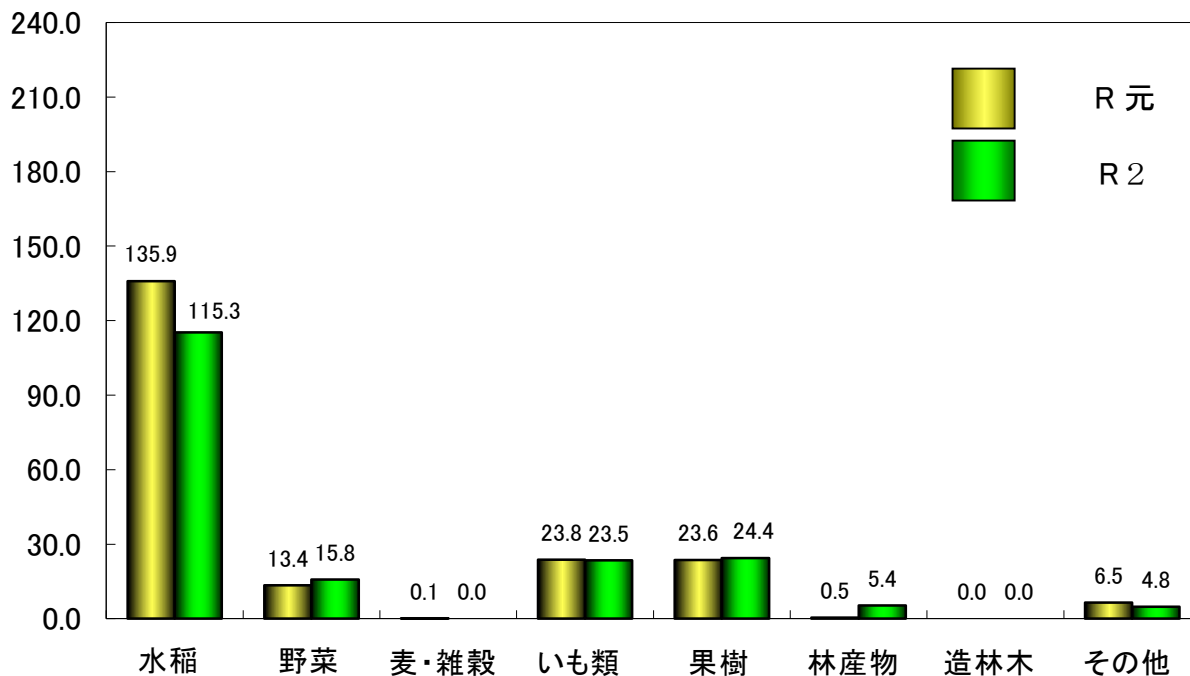


図-6 イノシシによる作物別被害金額

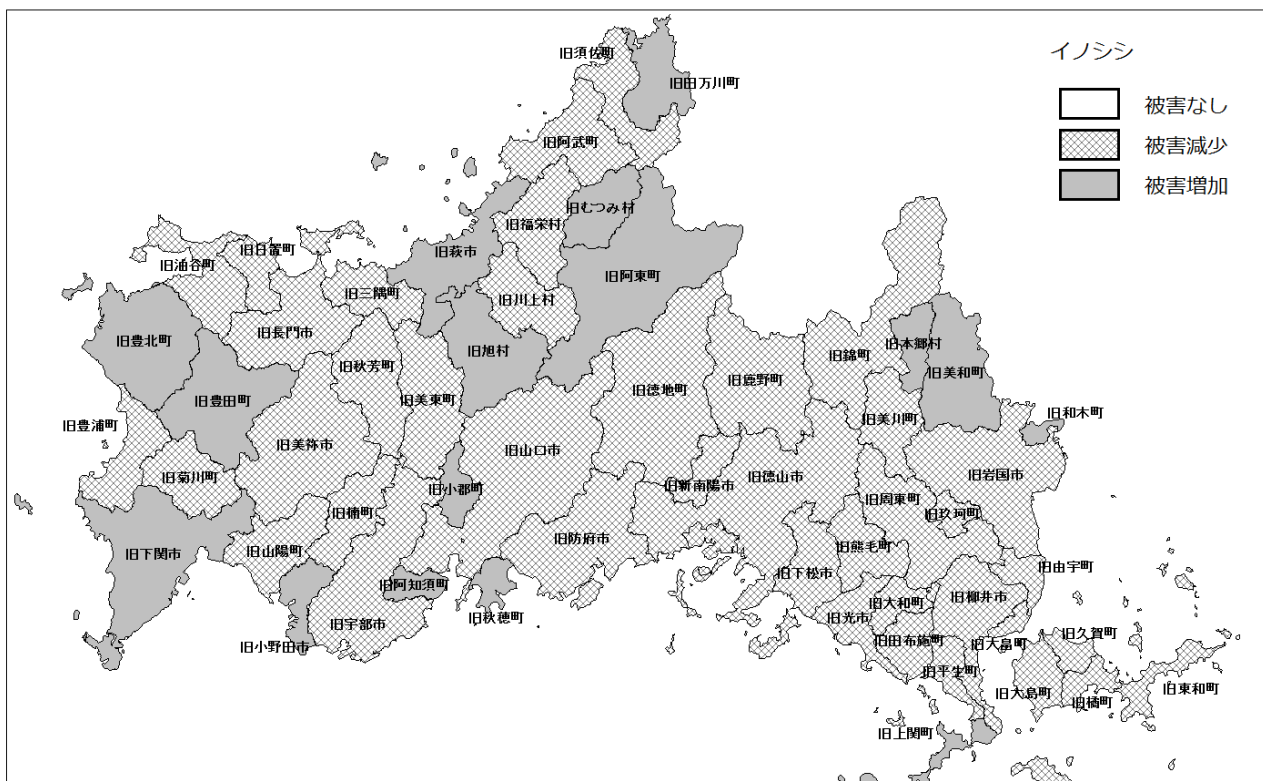


図-7 イノシシ被害の発生地域（旧市町村別被害額の増減）

(2) サル

サルによる農林業被害は平成25～27年度にかけて横ばい傾向にありましたが、平成28年度から再び被害が減少してきました。令和2年度は、対前年度比14%減の6千5百万円となっています。

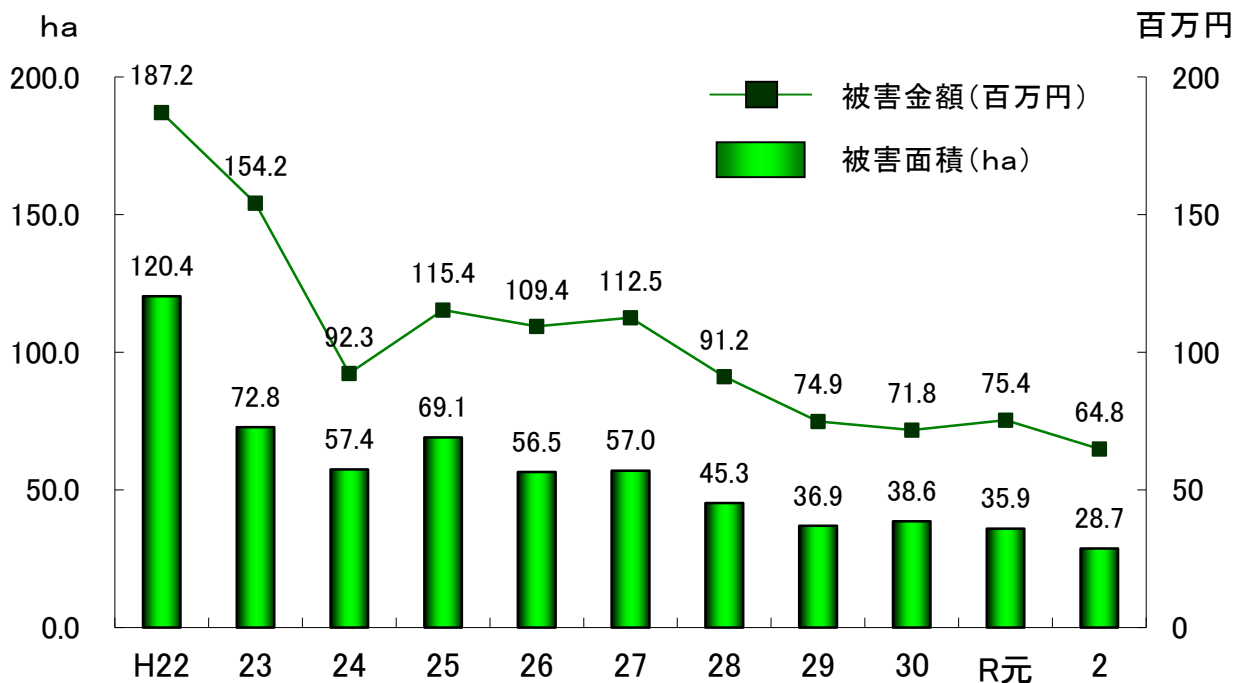


図-8 被害面積及び被害金額の推移（サル）

被害金額全体に占めるサルの割合は、近年は16%前後で推移しています。

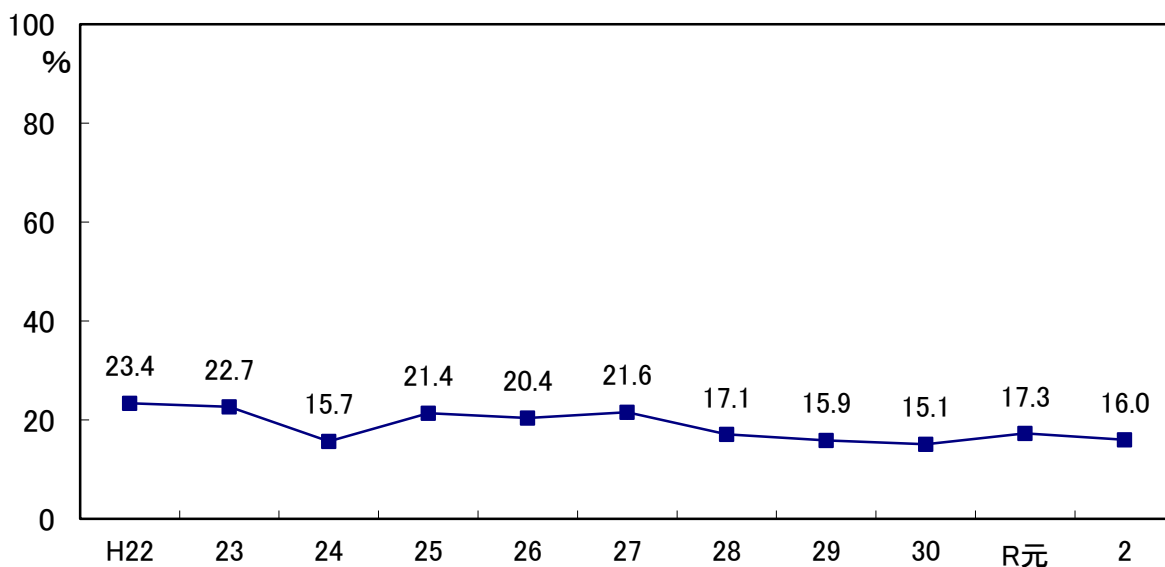


図-9 被害金額全体に占めるサル被害の割合の推移



### (3) シカ

シカによる被害はH29年度から減少傾向にありましたが、令和2年度は対前年度比3%増の9千万円となっています。

増加の原因は、造林木の食害によるものです。

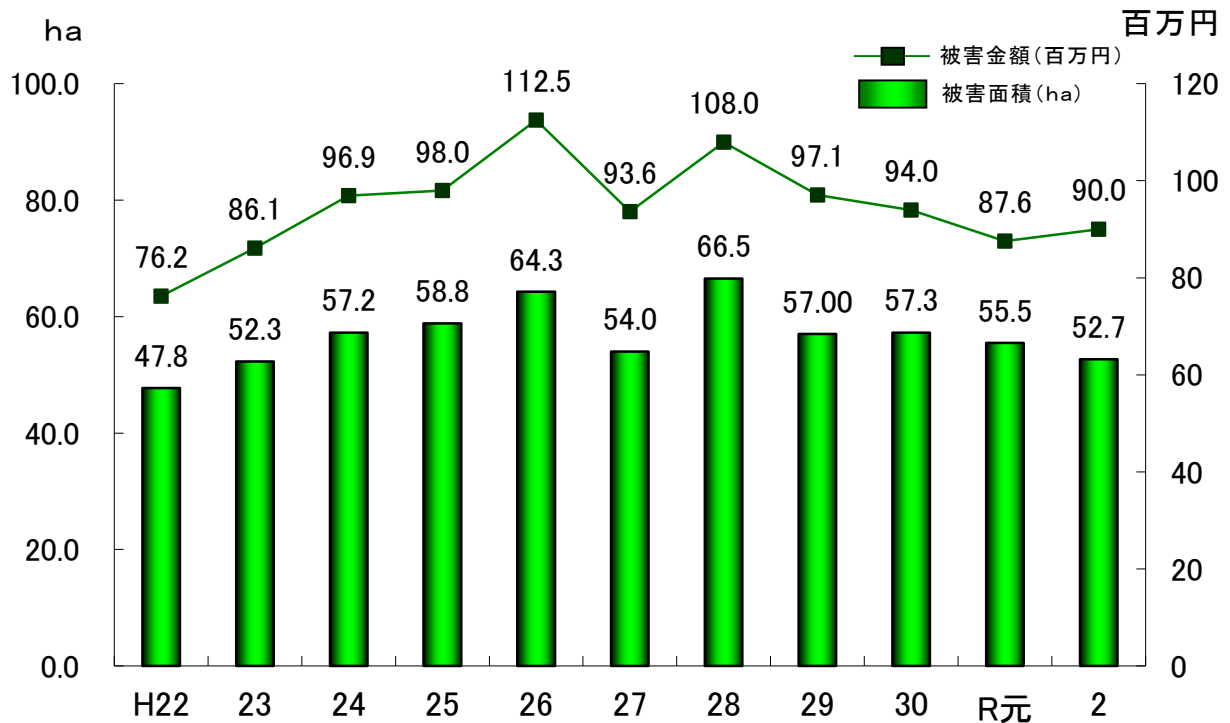


図-12 被害面積及び被害金額の推移 (シカ)

近年は、被害金額全体に占める割合は20%前後で推移していましたが、令和2年度は22.3%と若干割合があがっています。

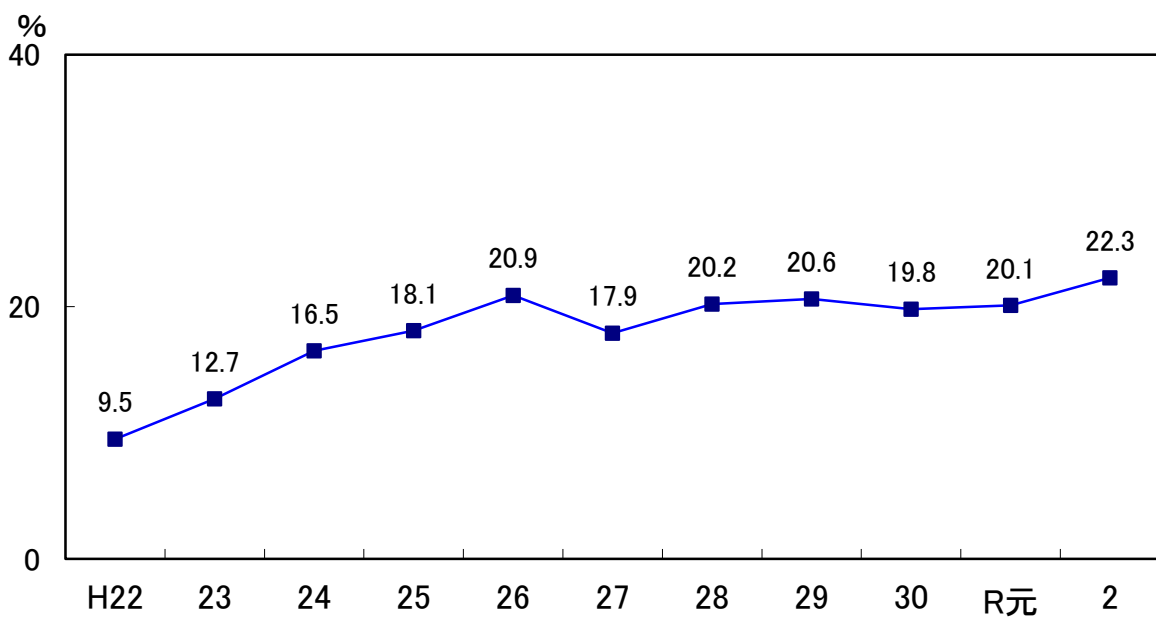


図-13 被害金額全体に占めるシカ被害の割合の推移



作物別の被害金額では、角コスリによる造林木への被害が最も大きく全体の55%を占めており、次いで水稲・食害・果樹の順になっています。

百万円

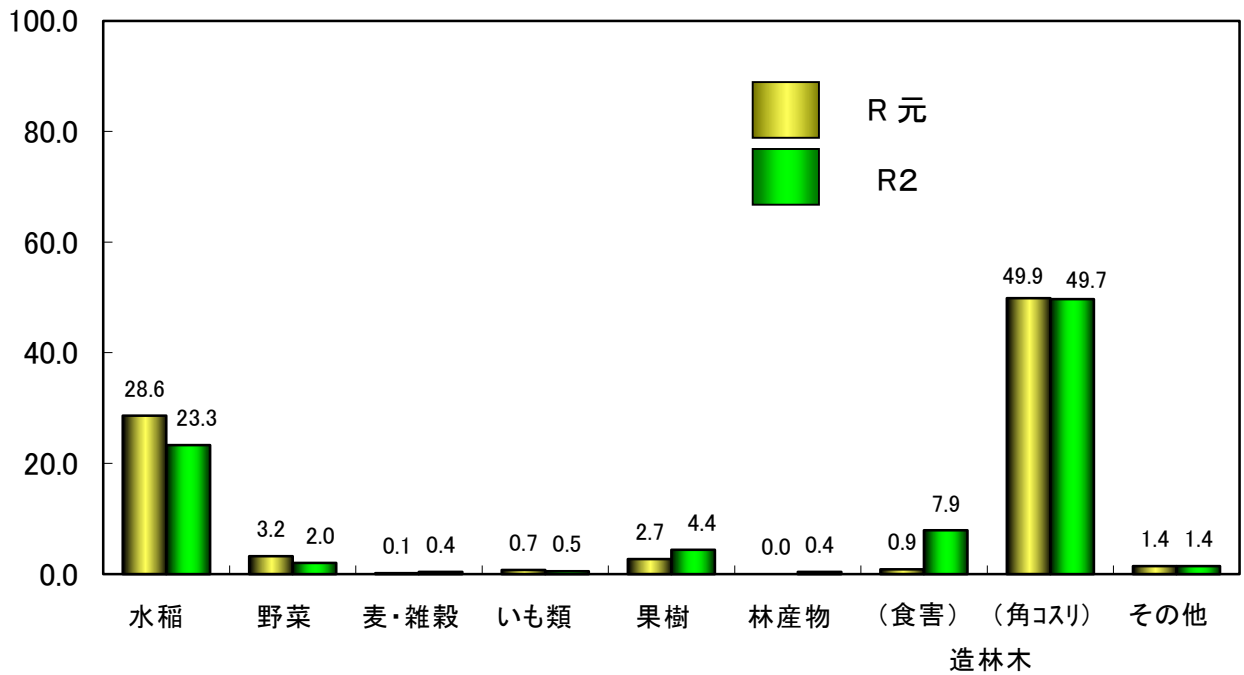


図-14 シカによる作物別被害金額

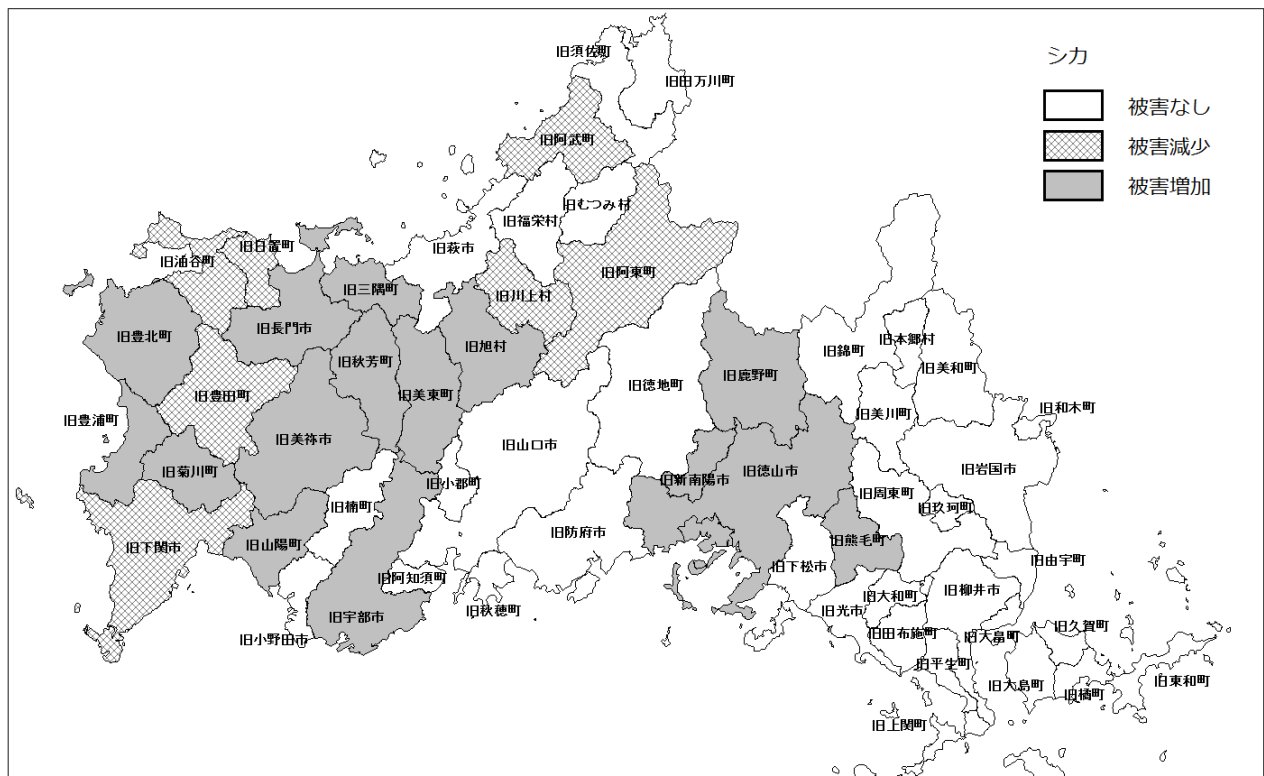


図-15 シカ被害の発生地域（旧市町村別被害額の増減）

#### (4) クマ

クマによる被害は平成22年度に大幅に増加し、その後減少傾向にありましたが、平成28年度に増加し、令和2年度は対前年度比38%増の445万円となっています。

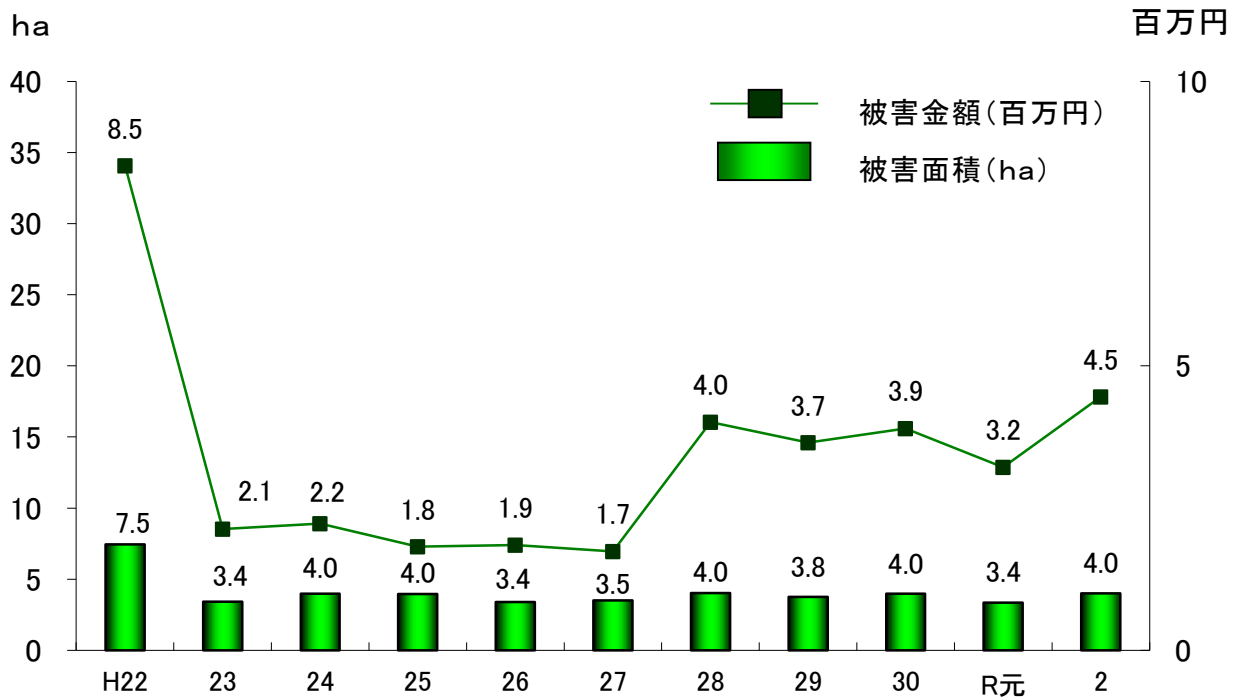


図-16 被害面積及び被害金額の推移（クマ）

令和2年度は、一件、養蜂での被害があったものの、被害作物は、ほぼ、果樹のみとなっています。

百万円

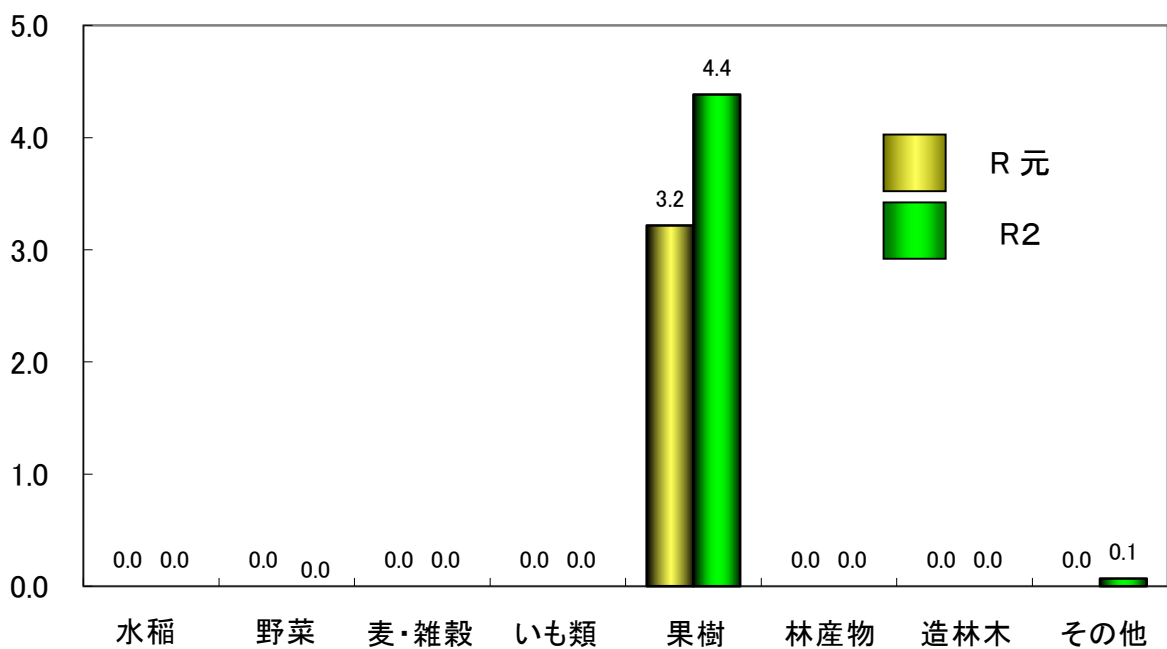


図-17 クマによる作物別被害金額

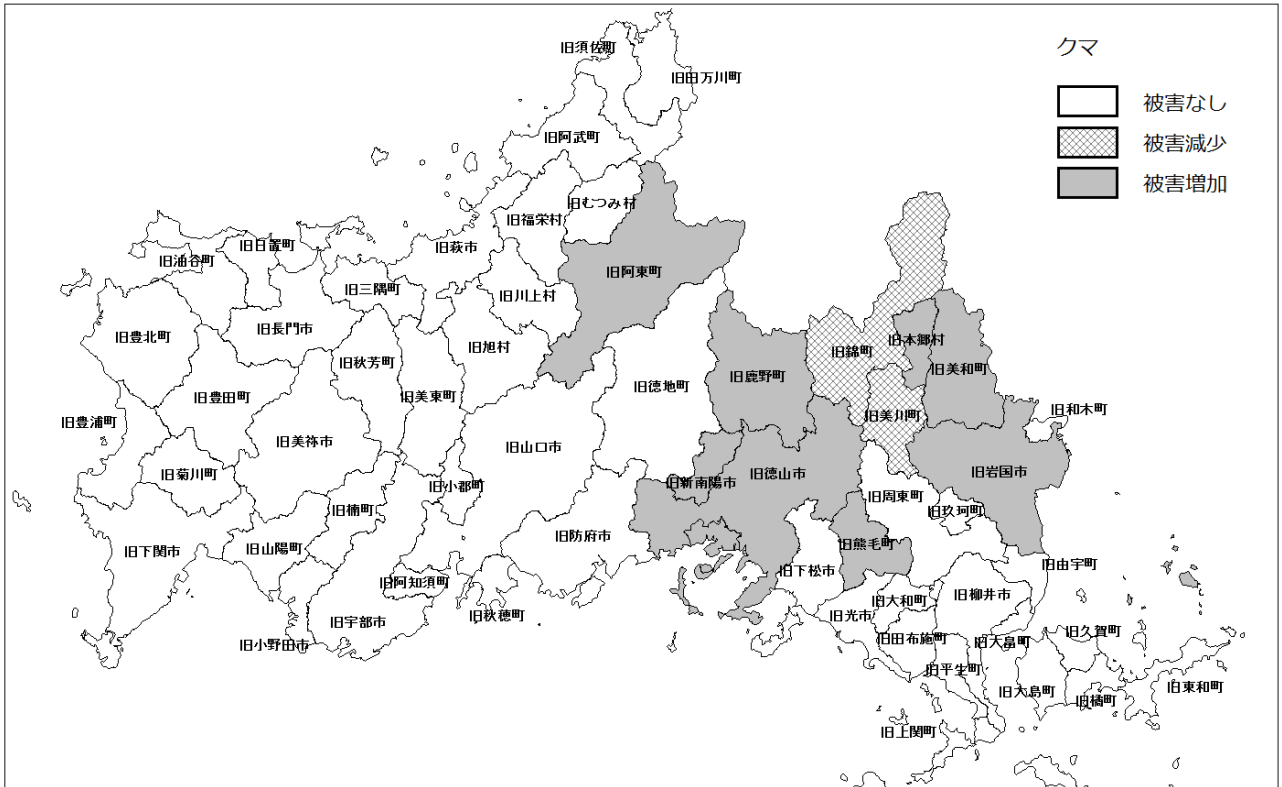


図-18 クマ被害の発生地域（旧市町村別被害額の増減）

### (5) タヌキ

タヌキによる被害は近年減少傾向であり、令和2年度は対前年度比28%減の402万円となっています。

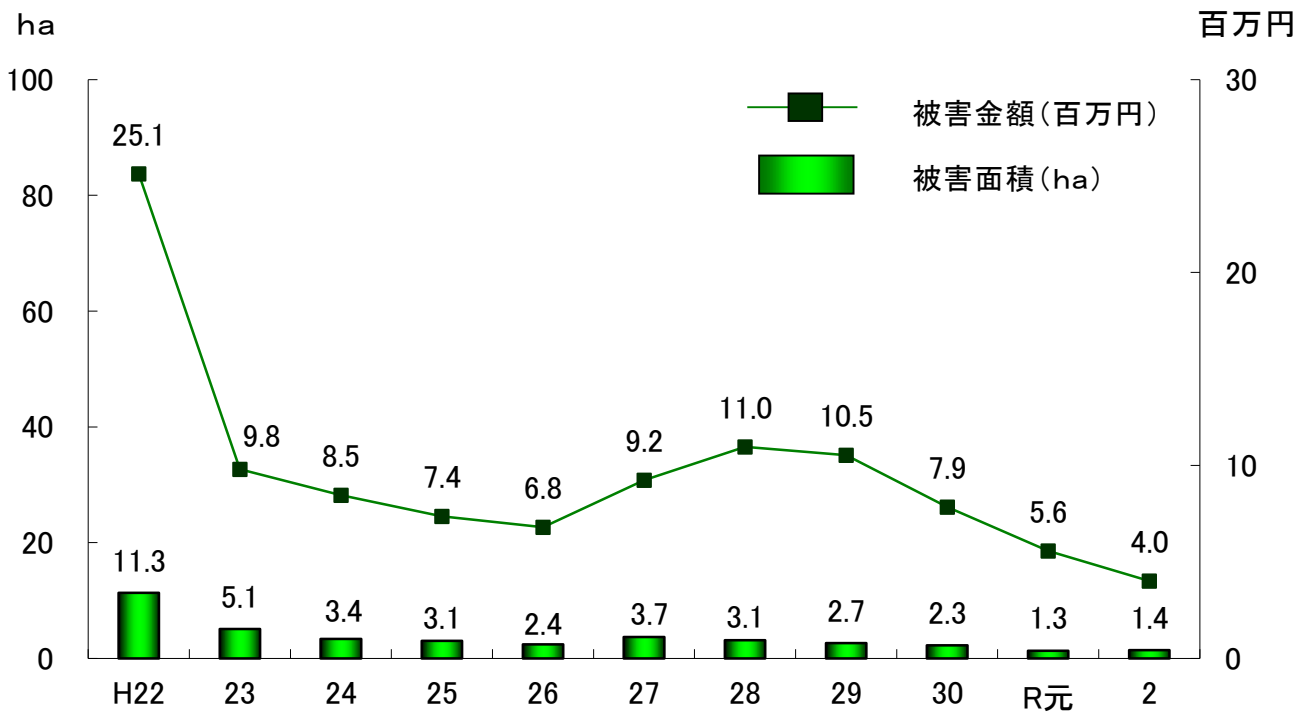


図-19 被害面積及び被害金額の推移 (タヌキ)

作物別の被害金額では、野菜と果樹の被害が大きく、全体の9割以上を占めています。

百万円

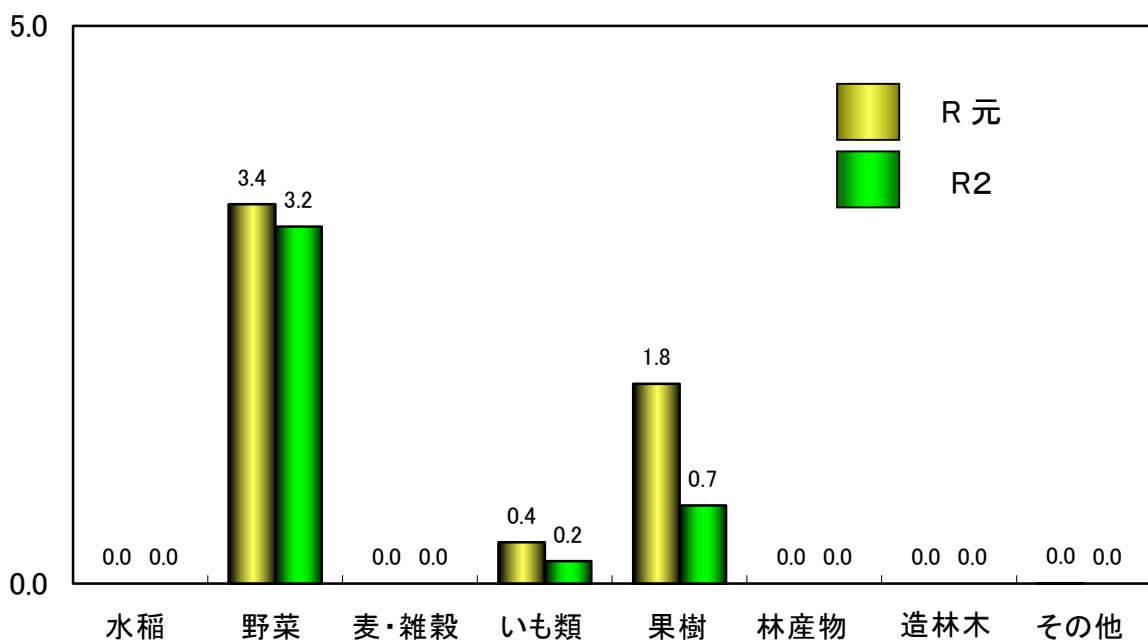


図-20 タヌキによる作物別被害金額

### (6) その他の獣類

その他の獣類による令和2年度の被害金額は、対前年度比19%増の1千百万円となっています。

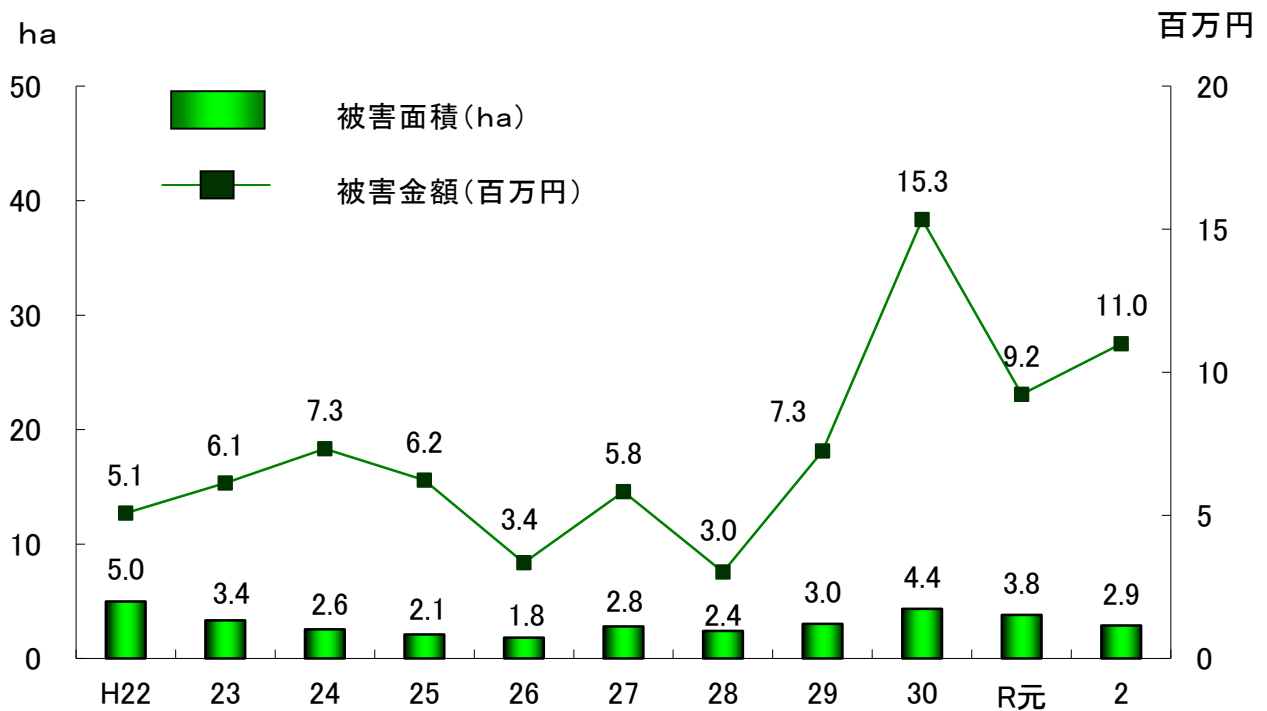


図-21 被害面積及び被害金額の推移（その他獣類）

平成30年度に比べると少ないものの、昨年度と比較するとアナグマとアライグマの被害金額が増加しています。

アナグマの被害の多くは、施設野菜（いちご）となっています。

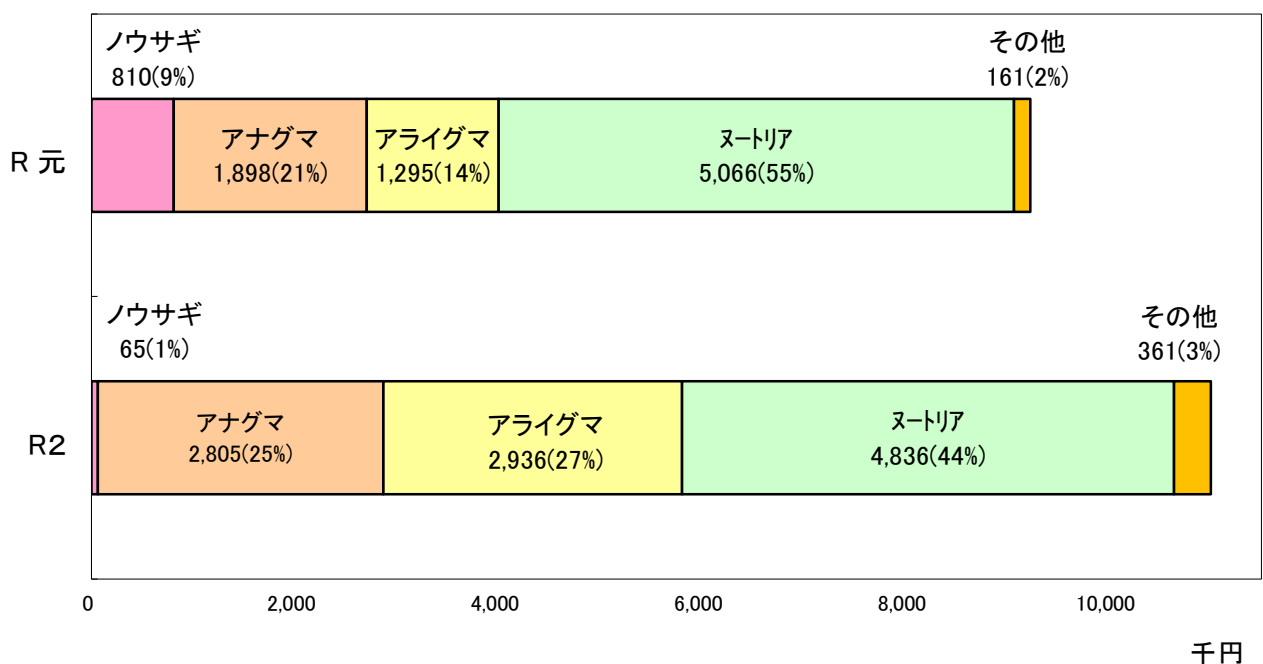


図-22 その他獣類による被害金額の内訳

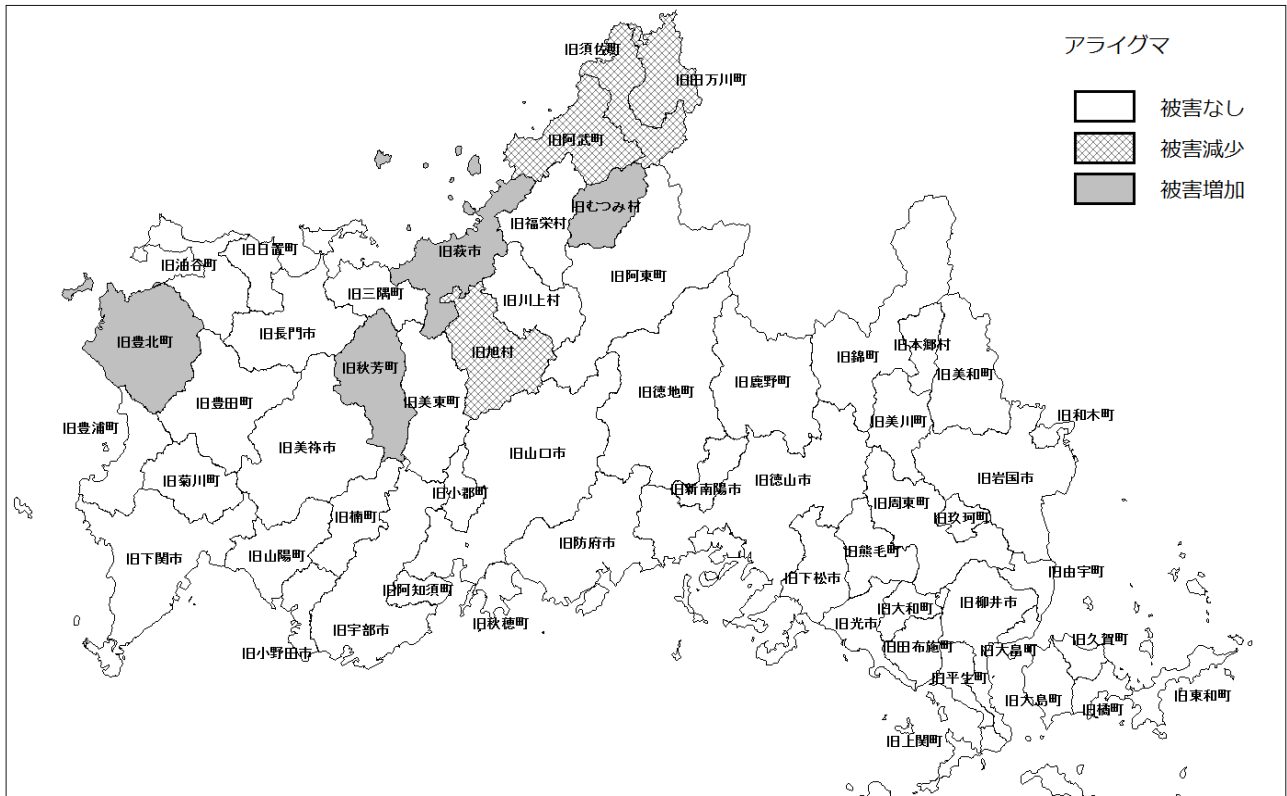


図-23 アライグマ被害の発生地域（旧市町村別被害額の増減）

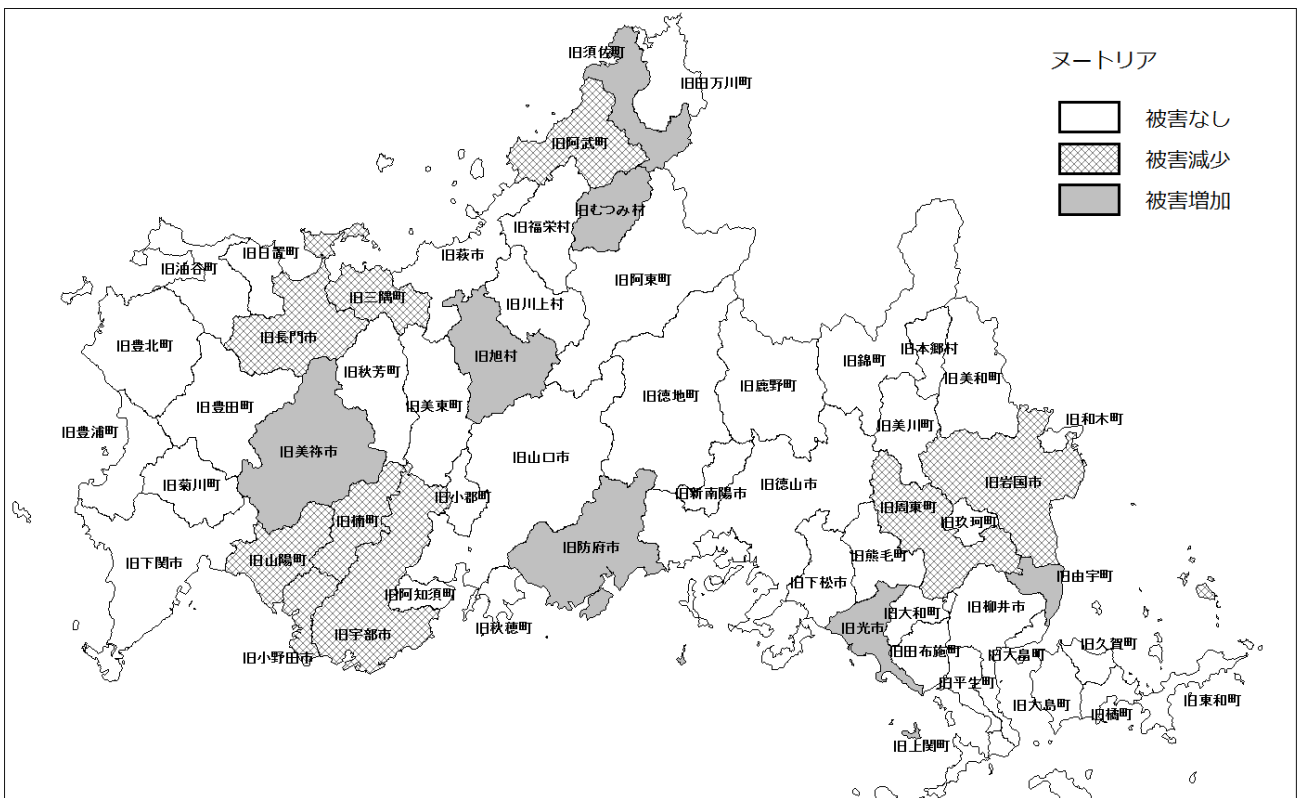


図-24 ヌートリア被害の発生地域（旧市町村別被害額の増減）

### 3 鳥類による被害状況

鳥類による令和2年度の被害金額は、対前年度比20%減の4千百万円となっています。

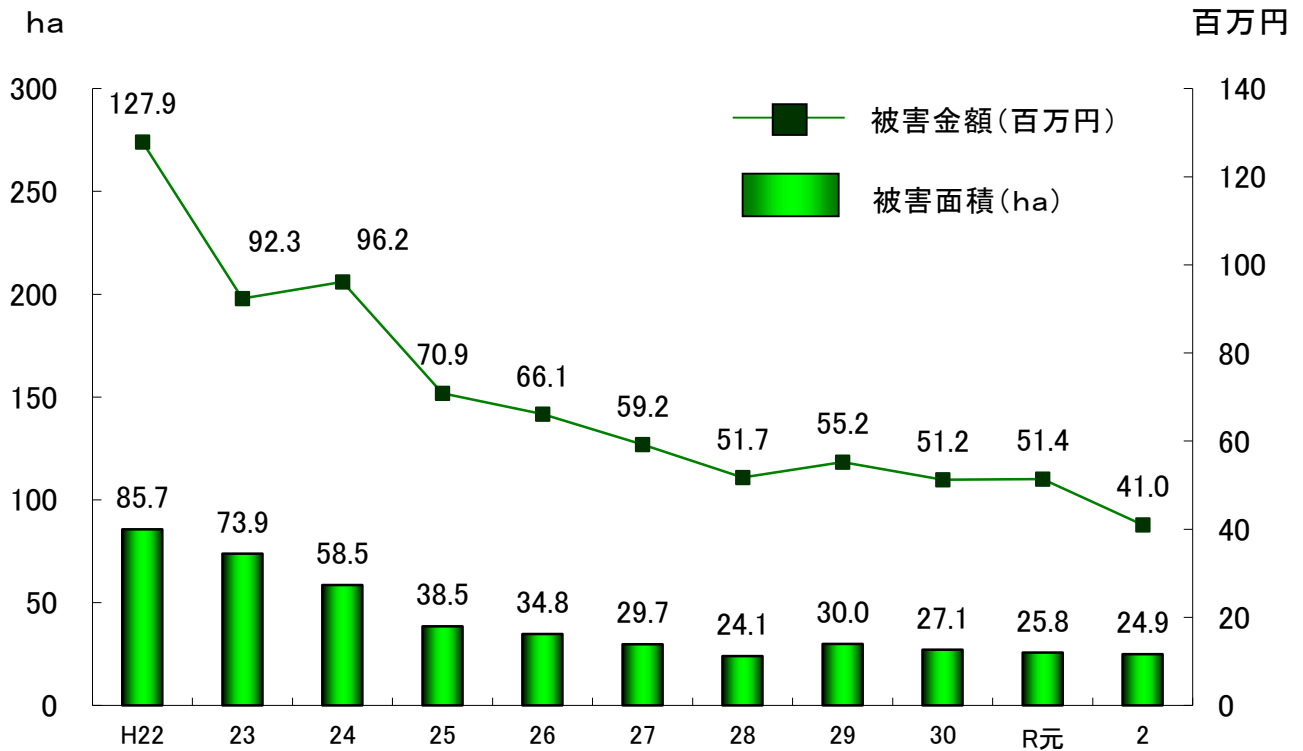


図-25 被害面積及び被害金額の推移（鳥類全体）

被害額全体に占める割合は近年、11%前後で推移しています。

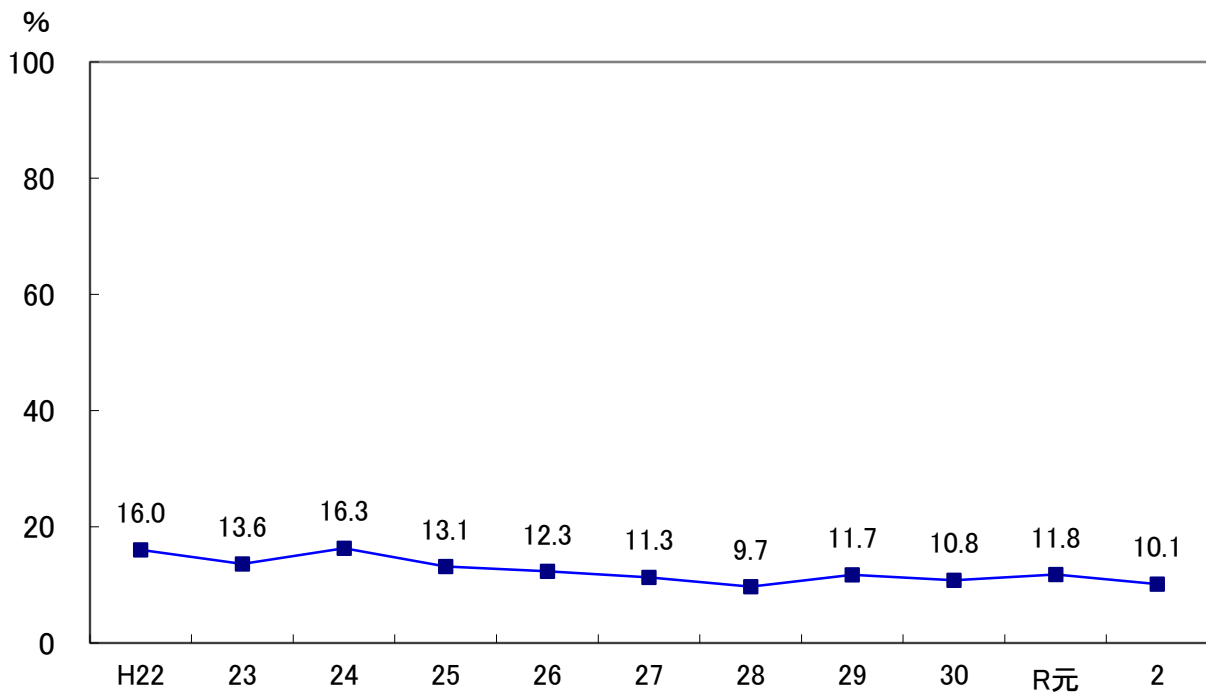


図-26 被害金額全体に占める鳥類被害の割合の推移

カラスは、昨年度とほぼ同じ被害額でしたが、ヒヨドリ、スズメ、サギ類は、被害額が減少しました。その結果、鳥類被害額の約5割がカラスによるものとなりました。

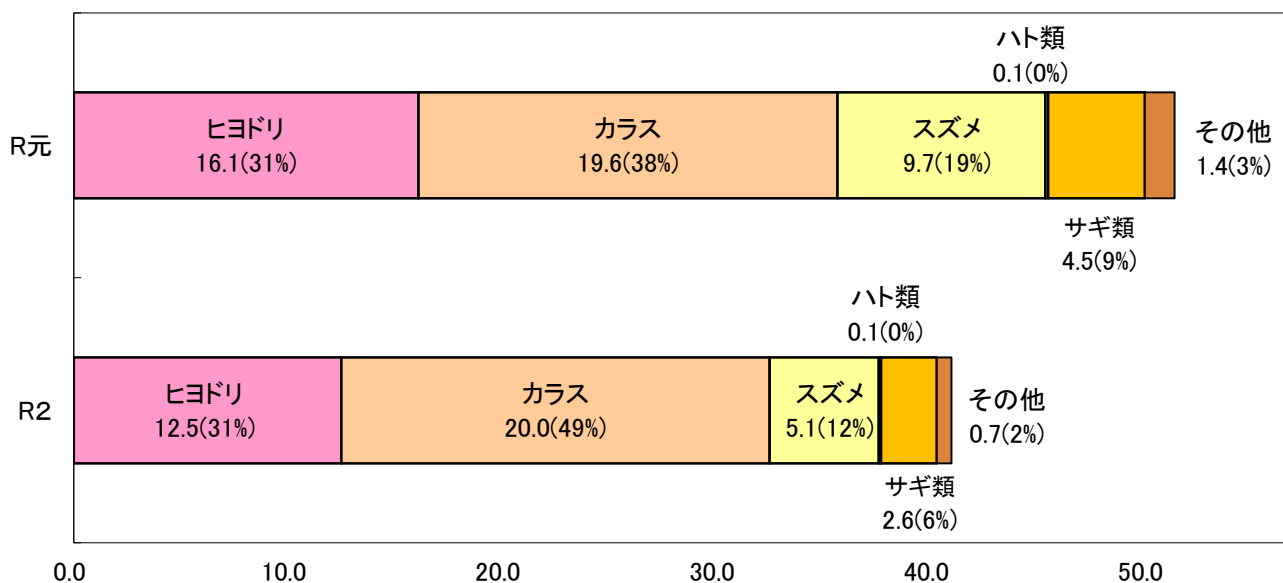


図-27 鳥類の種類別被害の内訳

鳥類の作物別の被害金額では、果樹が最も大きく次いで野菜となっています。

百万円

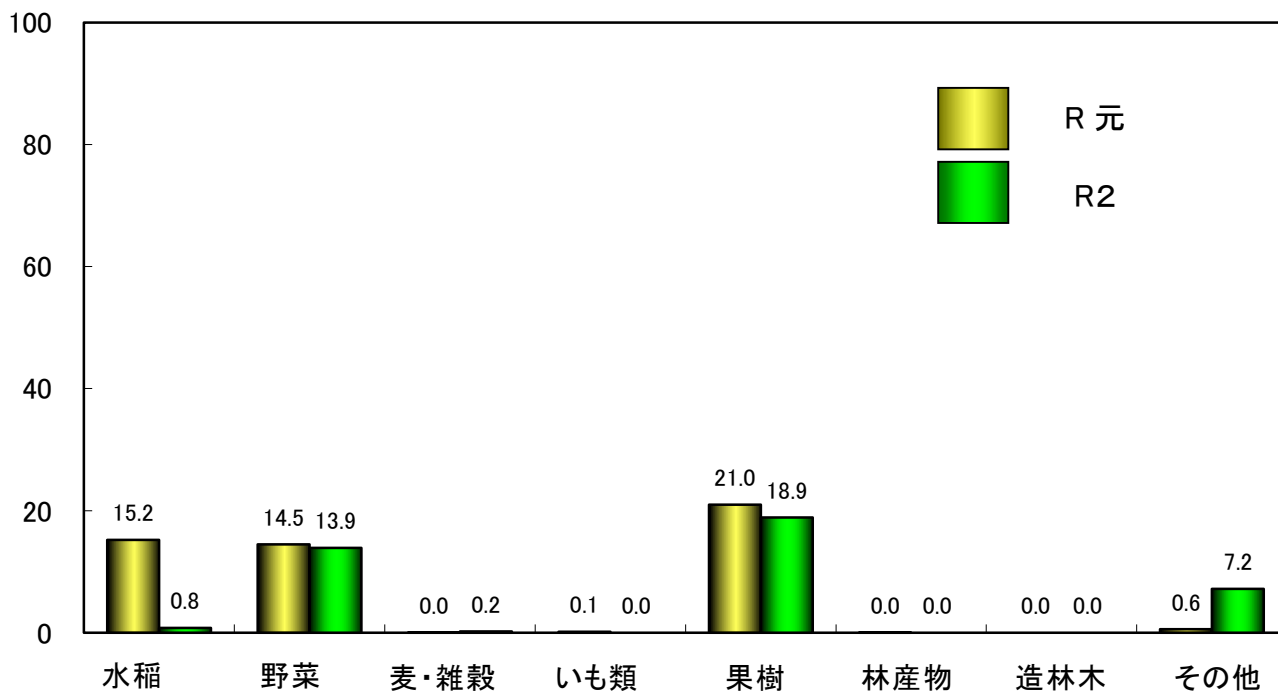


図-28 鳥類による作物別被害金額